

STAATSOPER UNTER DEN LINDEN

ベルリン国立歌劇場と 激動の20世紀

好評発売中！

ミーシャ・アスター 著
平尾行藏 訳

時代の嵐は、国を代表する歌劇場にも吹き荒れた！

ドイツ帝国、ワイマール共和国、ドイツ第三帝国、ドイツ民主共和国（東ドイツ）、ドイツ連邦共和国（統一ドイツ）。5つ激動期を見続けてきたベルリン国立歌劇場。時代の荒波に翻弄されながらも、自らの存在価値を問い、芸術的自由を追い求めた劇場支配人や音楽家たちの苦闘の歴史。政治や社会が文化に果たすべき役割を現代に問い直す、著者渾身の大作！

序文：ダニエル・バレンボイム



・体裁：A5判・並製・576頁
・定価：4800円＋税
ISBN978-4-931178-96-0

●ミーシャ・アスター

1978年カナダ生まれ。歴史学と音楽学の研究者であると同時に演劇制作者。主な著書に『第三帝国のオーケストラ』（早川書房）がある。

●平尾行藏（ひらお・こうぞう）

1945年生まれ。元・遠山音楽財団附属図書館、慶應義塾大学図書館員。主な訳書に『プレミエからレパートリーへ』などがある。

ベルリンのブランデンブルク門からベルリン大聖堂へ続く大通りは、ウンター・デン・リンデン（菩提樹の下）と呼ばれる。ベルリン国立歌劇場は、この通りに面していて、正式名称は、「シュターツオーバー・ウンター・デン・リンデン」という。

その歴史は、はるかプロイセン王国の宮廷歌劇場まで溯り、いつの時代も国家を代表する歌劇場として、数々の音楽史を彩ってきた。

「シュターツオーバー・ウンター・デン・リンデン」の名は、世界中に轟き、今も、「菩提樹の下で会おう」という合言葉と共に、音楽愛好家たち憧れの劇場として燦然と輝いている。



ソ連の要人を迎えるシュターツオーバー 2階正面桄敷



シュターツオーバー（東独時代）

本書は、ナチス政権下でのベルリンフィルハーモニー管弦楽団の活動を描いた『第三帝国のオーケストラ』で称賛を浴びたミーシャ・アスターが、ドイツを代表する歌劇場を舞台に、政治権力の干渉とそれに対する劇場支配人や音楽家たちの葛藤を描いた意欲作である。時代の激流に翻弄され、交叉する人間ドラマが鮮やかに甦る傑作ノンフィクション。
★ファン待望の日本語版！

◎お近くの書店、またはネット書店（Amazon、楽天ブックス他）でお求めください。

出窓社 東京都国分寺市光町1-40-7-106 〒185-0034 Tel 042-505-8173 Fax 042-505-8174

www.demadosha.co.jp *直送をご希望の場合は小社まで葉書かFAXでご注文ください。料金後納で送ります（送料：330円）